元旦に悲報の衝撃

「一年の計は元旦にあり」と言う言葉がある。誰もが知っている４計のひとつであり、今年の計画は元旦に立てるべきと言う意味である。小学３年生を担任していた教師時代、子どもたちは「今年は 100 冊読書をする！」とか具体的な計画を言っていたが、４年生になると「今年は時間を大切にする！」と言う風に抽象的な目標に変わった子どもがいることに気が付いた。これはいわゆる「９歳の壁」のことであり、脳の発達に関わって具体的思考から抽象的に思考が備わってくると言われている大事な時期を示している。3 学期の始業式当日は今年の自分の目標をみんなに発表する日でもあった。

元旦の朝に新調した服を着て家族や親せきが集い、昨年度の家内安全に感謝し、今年もよろしくと言う意味を込めてお雑煮を食べる。みんなが新年を祝っていた様々な光景が全国であったに違いない。そんな日の午後４時 10 分に能登半島を最大震度 7 を観測する大地震が襲う事態が発生した。私は初詣の神社駐車場の中で車内テレビでそのニュースを見て、あの 2011 年東日本大震災での津波被害の映像が頭をよぎった。

日本の治安はすこぶる安全で、外国人の日本旅行者が絶賛している報道をよく聞く。夜道を女性が一人で歩くことへの安全性は世界一らしい。落とし物もほとんど戻ってくる。私も二度経験しているがスマホを電車内に忘れても、ほぼ終着駅で保管されている。保険会社の発表による日本の「平和さ」は世界の 5 位で非常に高い。しかし、自然災害による被害リスクは世界 17 位であり「安全では？」と思ってしまうが、なんと先進国ではその被害リスクはトップである。自然災害によるインフラ整備や対応能力、適応能力は世界的に評価されており、能登半島地震災害の早急な復興を願わずにはいられない。ライフラインの完全復活が４月になるという報道もあるが、何も支援できないジレンマもあり、せめて災害義援金だけでもと思って、豊翔高等学院として少ない額だが振り込みをしたことを報告しておきたい。

豊翔高等学院も今年は指導内容の質的向上はもちろん、京都校のさらなる充実にも力を入れたい。杏先生も戻ってくる。私はもう一年、明誠高校通信制課程に従事することで、小林学院長を補佐したい。

（丹羽　豊）